

のと海洋ふれあいセンターの平成 18 年度管理状況

施設所管課	環境部自然保護課
指定管理者	財団法人 石川県民ふれあい公社 理事長 栗原 正一
指定期間	平成 18 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

(1) 管理業務の実施状況

業務内容 (協定・条例に規定)	具体的な業務 (仕様書、事業計画) の実施状況 (不十分な場合、その理由、指摘事項を記入)
使用する者への利便の提供に関する業務	<p>施設の使用受付、案内等の接遇向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従事員全員に対し、応接を徹底 <p>利用者の苦情・意見の把握・対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの実施 (延 408 通、体験学習について高い評価が得られている) ・利用者ニーズの反映 (普及事業内容の見直し・改善など) <p>その他特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への箱めがねの貸出
利用の促進に関する業務	<p>自主事業の企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験スノーケリングの開催 (参加人数 226 人) ・スノーケリング教室の開催 (参加人数 136 人) ・体験学習 (工作等) の提供 (利用件数 1,449 件) <p>施設の情報提供、広報、広告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの管理・運営 ・メールマガジンの配信 (毎月 1 回・年 12 回配信) ・報道機関等への情報提供 ・広報誌「能登の海中林 25・26」の発行・配付 (計 3,000 部) ・奥能登地域小中学校への誘客 <p>周辺地域、関係機関との連携・協力の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のとスノーケリング研究会「海もぐら」とスノーケリング事業指導者の派遣について連携 ・いしかわ自然学校・石川県民大学校・能登町出前講座等とプログラム提供について連携 ・能登町深層水取水施設と海洋深層水の普及について連携 ・ホテルのときんぷらと宿泊型体験学習プログラムの提供について連携
使用の許可に関する業務	<p>使用許可、使用料の徴収、納入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用許可の件数 ((2) 参照) ・使用料の収入実績 ((3) 参照)
施設、設備及び備品の維持管理及び修繕に関する業務	<p>映像設備保守、空調設備、自家用電気工作物保安、夜間警備 海水取水設備保守、消防用設備保守、館内清掃、樹木等管理 合併処理施設維持管理</p>

(その他知事が必要と認める業務)	緊急時の対応・安全管理などの危機管理 ・危機管理マニュアルの策定、職員への教育
------------------	--

(2) 施設の利用状況

利用指標((設定している場合) 利用人数、稼働率などの数値目標)

指標	H17年度 (参考)	H18年度	前年度比	増減理由
利用者数(人)	14,055	14,481	103.3%	体験学習等実施による利用者の増。

使用許可等の状況
なし

(3) 使用料の収入実績

利用料金の収入及び減免の状況

	収入額	減免額	減免理由
入館料	977,920円	71,600円	条例施行規則第6条の規定による

(4) 収支決算

(千円)

収入		支出	
管理料	56,463	人件費	42,615
利用料収入	978	光熱水費	3,705
		修繕費	552
		その他	9,067
		次年度運営準備金	1,502
合計	57,441	合計	57,441
収支差額	0		

(5) その他、県が必要と認める事項(管理の実態を把握するために必要な事項)

利用者アンケート結果、評価、苦情、要望
なし

事故、故障等

年月	内容	対応
平成19年1月	シアタースクリーンコンバーター故障	県有施設補修工事委託契約により修理
平成19年1月	磯の観察路の飛石補修	県有施設補修工事委託契約により修理

その他報告事項など

--

(6) 評価結果

評価項目	結果	所見(工夫、改善点)
サービスの維持・向上に向けた取組みが行われているか。	B	・利用者アンケート調査によって、利用者の声を運営に活かすことでサービスの質を向上させている。
利用促進に向けた取組みが行われているか。	A	・体験学習事業の充実や、積極的な広報活動の結果、利用者数が前年度を上回っている。
施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	B	・施設管理の専門的ノウハウを活かし、仕様書等に基づき適切な管理が行われている。
緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常時の連絡体制やマニュアルが定められ、安全対策が適切である。 ・ 年数回の避難訓練等を実施しており、危機管理に万全を期している。 ・ 施設の内外を毎日見回っており、安全な管理運営を行っている。
適切な管理運営を行う組織・体制か。	B	・適切な職員の配置がなされており、業務に関する研修・講習が十分なされている。
総合評価	B	・施設の設置目的にあった管理運営がなされており、今後も専門的なノウハウを活かした管理を期待する。

評価基準

- A (優): 従前の管理水準や仕様書等に定める水準を上回っている
- B (良): 従前の管理水準や仕様書等に定める水準を十分に実施している
- C (可): 従前の管理水準や仕様書等に定める水準を概ね実施しているが、一部改善を期待する部分がある
- D (不可): 従前の管理水準や仕様書等に定める水準を下回っている

総合評価

- A (優): 適正であり、優れた実績をあげている
- B (良): 適正である
- C (可): 概ね適正であるが、一部改善を期待する
- D (不可): 改善が必要である